

福山市立鳳中学校 公開研究会

＜研究主題＞

「自ら感じ、考え、行動化できる生徒を育てる道徳教育の創造」



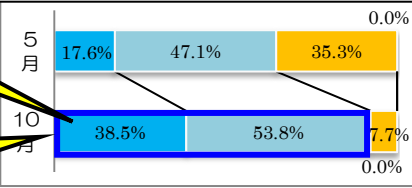
2017年(平成29年)11月1日(水)

福山市立鳳中学校

教師の変容

「道徳の時間」では、「特別の教科 道徳」の趣旨を踏まえた、多様な指導方法の工夫

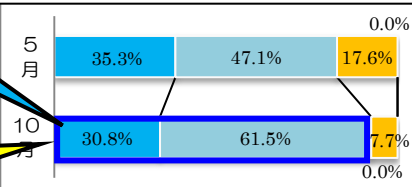
そう思う
20.9ポイントUP



肯定的評価
27.6ポイントUP

「道徳の時間」では、生徒が自分のことを振り返りながら考えるような指導の工夫をしている

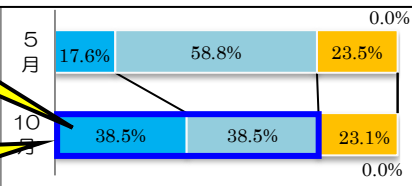
そう思う
4.5ポイントDOWN



肯定的評価
9.9ポイントUP

「道徳の時間」では、生徒が友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりするような指導の工夫をしている

そう思う
20.9ポイントUP



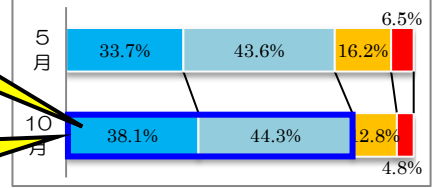
肯定的評価
0.6ポイントUP

- ①多様な指導方法を取り入れるなど、道徳の授業が、生徒の考えを深めたり広げたりできるような時間になるように工夫して授業を行う教師の割合が増えた。
- ②道徳や生徒のようすについての話が、職員室で増えた。

生徒の変容

「道徳の時間」の勉強は好きだ

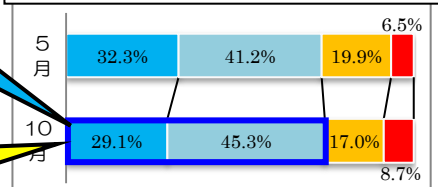
そう思う
4.4ポイントUP



肯定的評価
5.1ポイントUP

「道徳の時間」では、自分のことを振り返りながら考えている

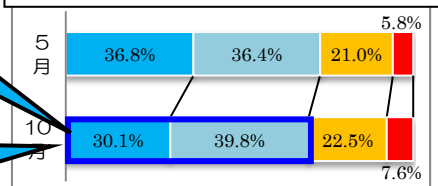
そう思う
3.2ポイントDOWN



肯定的評価
0.9ポイントUP

「道徳の時間」では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている

そう思う
6.7ポイントDOWN



肯定的評価
3.3ポイントDOWN

- ①道徳の授業が好きな生徒の割合が増えた。
- ②自分のことを振り返りながら考えている生徒の割合が増えた。
- ③友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている生徒の割合が減った。

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

成果

- 校内研修を重ねたり、学年会で資料の吟味をしたりするなど道徳教育推進教師を中心に組織的に取り組んだことで、資料を通して考えさせたい道徳的価値やねらいに迫るための発問への理解が職員全体で深まった。
- 道徳の授業に主体的に取り組もうとする割合が、教師も生徒も共に増えた。指導方法を工夫して教師が授業を行うことで、生徒も道徳の授業に主体的に取り組むようになったと考えられる。
- 職員室での道徳に関する話題が日常的になった。
- 生徒がワークシートに書いた振り返りや授業中の発表内容から、友達の考えを通して自分の考えを深めている姿が見られる。

課題

- ▲話し合い等を通して、自分の考えを深めたり、広げたりしている生徒の割合が減っており、教師の意識とズレが生じている。
- ・班などの小グループで意見を交流する際、各自の意見の紹介に留まっている。教師が設定した話し合いの場が効果的に活用できていない。
- ・生徒の発言の意図を教師が汲み取れず、生徒の発言を生かしていない。
- ・生徒の割合が低下したのが1学年のみであることから、メタ認知能力が高まった結果、自分について細かく振り返ることが出来るようになったため、生徒の割合が下がったと考えられる。
(肯定的回答の変化 1学年：5月 93.0%→10月 77.1%)

今後の方向性

○教師の授業力の向上

- ・校内研修の積み重ね（継続）
- ・組織的に取り組む授業づくり（継続）
- ・ローテーションによる道徳授業（新規）
- ・思考を深めさせるための問い返し（改善）

○考え、議論する道徳に向けて

- ・意見交流の行い方や意図を明確に提示（改善）
- ・思考のつながり、深まりが視覚的に捉えやすくなるような板書、ワークシートの工夫（改善）

○行動へのつながり

- ・道徳の時間と他教科等とのつながりを意識したカリキュラム・マップの改善、特別活動やボランティア活動等、道徳の時間における学びを関連させて生かせる場の設定（改善・継続）
- ・細かな評価の積み重ねと道徳通信による生徒の道徳的行為の紹介（継続）



学校教育目標 「翔び立つ」



研究主題 「自ら感じ、考え、行動化できる道徳教育の創造」

めざす生徒像

「自己の夢や目標の実現に向け、自らを律しつつ、果敢に挑戦しつづける生徒」
 育成する力（21世紀型“スキル&倫理観”）

重点

育成する力	1学年	2学年	3学年
（思考力・表現力） ○他者の考えを尊重しつつ、自分の意見を主張することができる。	○筋道を立てて考えることができる。	○他者の考え方を尊重しつつ、自分の意見を主張する。	○他者の考え方を尊重しつつ、自分の意見を主張する。
（コミュニケーション力） ○集団の中で、互いの考えを尊重し合いながら意見を交流することができる。	○少人数の集団でお互いの考えを尊重し合いながら意見を交流することができる。	○集団の中で、互いの考えを尊重し合いながら意見を交流することができる。	○集団の中で、互いの考えを尊重し合いながら意見を交流することができる。
（人としての思いやり） ○困っている人に声かけができ、周りの仲間と協力して行動できる。	○協力して物事に取り組むことができる。	○周りの仲間と協力して行動できる。	○困っている人に声かけができ、周りの仲間と協力して行動できる。

研究の概要

本研究の趣旨

- 1 **思いやりの心**の育成を重点とした、**学びと実践のつながりのある道徳教育の在り方**を研究する。
 →**カリキュラム・マップ**を活用し、**道徳の時間での学びと他教科等とのつながり**を意識した指導を行う。
- 2 教師、生徒が共に主体的に取り組む**道徳教育を推進**するために、これまで実践してきた教育活動を生かし、**「考え、議論する道徳」の授業の在り方**を研究する。
 →**教師の授業力の向上**を図るとともに、**問題解決的な学習など多様な指導方法の工夫**を取り入れた授業づくり
- 3 **「特別の教科 道徳」の教科化**を踏まえ、**評価の在り方**を研究する。
 →**意識調査**や**ワークシートの振り返り**、**授業に取り組む姿勢**から生徒の変容を見取る。

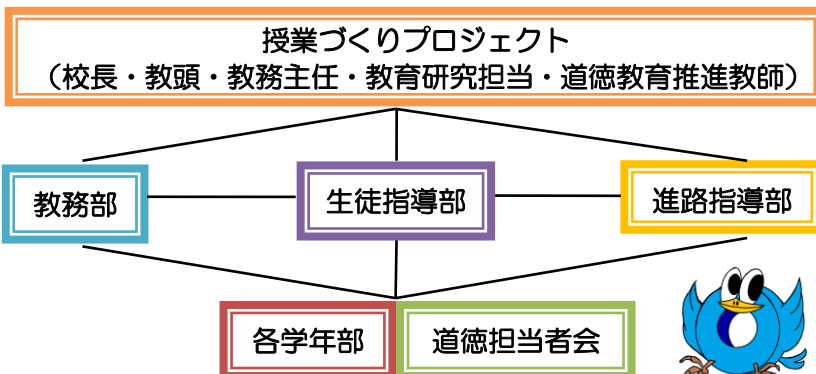
検証の視点

- 道徳教育に対して教師、生徒が共に主体的に取り組んでいるか。
- 「考え、議論する道徳」を実施できているか。
- 思いやりの心が高まっているか。
- 道徳の授業での学びが実践に結びついているか。
- 教師の授業力を向上できているか。

研修計画

4月	校内道徳教育推進体制づくり
5月	生徒・職員アンケート実施① 中学校区全体会道徳参観授業（1学年）
6月	新道徳性検査（HUMANⅢ）実施① 授業参観日（道徳） 先進校視察 道徳校内研修（道徳授業研究）（1学年）
8月	小中合同研修会（道徳） 道徳校内研修（道徳理論研究）
9月	先行授業・道徳校内研修（全学年1学級）
10月	資料分析・指導案検討・模擬授業
11月	公開研究会（全学級） 新道徳性検査（HUMANⅢ）実施②
12月	生徒・職員アンケート実施②
1月	校内研修（今年度の道徳研究のまとめについて）
2月	報告書作成 来年度の研究計画の作成

校内の研究推進体制



教師の授業力の向上

【学年道徳指導案検討会の様子】



組織的に取り組む道徳

道徳教育推進教師を中心にチームを組み、指導案の検討、授業実践、評価方法・改善策の検討までを総合的に捉え、実践研究を行った。職員室での道徳に関する交流が増え、教師の負担感や苦手意識を改善し、関心を高めることができた。

校内研修の充実（6月、9月）

大阪教育大学 名誉教授 藤永芳純先生をお招きし、指導して頂いた。「考え、議論する道徳」を実施するためのポイントなどについて全職員が理解を深めることができた。



道徳の教科化が実施される背景や、問題解決的な学習を取り入れた道徳の必要性と具体について全職員が共通理解をもつことができた。



6月に「考え、議論する道徳」についての理論を学び、9月には学んだ理論に基づいて、全学年で校内研究授業を行った。先行授業も行いながら、検討・改善を積み重ね、教師の授業力向上につなげることができた。

生徒の主体的な学びを促すための指導方法の工夫

（例）「考え、議論する道徳」への質的転換を図る問題解決的な学習を取り入れた取組

○生徒理解（実態把握）に基づいた授業づくり（ギャップから問題を見つける）

＜意識調査による把握＞

- ・道徳性意識調査の実施（年2回）
- ・自尊感情に関わる意識調査（年3回）

＜生徒観察による把握＞

- ・ワークシートからの変容の見取り
- ・生徒の行動、発言による変容の見取り

課題意識を持たせる工夫

ポイント① スリの認知

導入で、生活の様子を振り返る発問を行い、意識と実生活での行動とのスリから課題意識を持たせる。この際、ネームプレートによる意思表示や、アンケート結果の提示により、視覚的に課題を捉えやすくする。

ポイント② 教材提示の工夫

視覚資料を活用し、本時の内容について学習意欲を高める。

ポイント③ ペアやグループによる話し合い（考え合う場の設定）

意見交流を通して、多面的・多角的な考えに気付かせる。多様な価値観に触れ、自分の考え方との違いに気付かせる。課題意識を持ち、自分なりの考えを深めさせる。

ポイント④ 問い返し発問

生徒の発言に、効果的に問い返すことで、道徳的価値に対する理解を深めさせる。また、自分の体験とつなげさせることで、生活との関連を図る。

課題解決に向けての工夫



保護者や地域と共に、学び、育てる道徳教育

- ・ゲストティーチャーによる道徳授業、道徳参観日の実施
- ・毎時間、学級ごとに道徳通信を発行し、生徒の振り返りや気づきとともに、「私たちの道徳」（文部科学省）で関連する記事を紹介し、学級や家庭で交流できる資料とする。